



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2021/12/12 公開  
◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆

# 19 「携拳される人々とは誰なのか？」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは、艱難時代の前に、時代順番に起こる 10 個の前兆について説明して来ました。聖書を見ると、これ以外に、どのタイミングで起こるのかについては伏せられている 4 つの前兆があるんです。その中の 1 つ、最も注目すべきこと、それは**携拳**です。

携拳の携は携帯電話の携。拳は拳手の拳。この 2 つの文字を組み合わせて携拳です。

キリストが空中までお越しくださって、全てのクリスチャンたちを携えて天に上げてしまう。引っ張り上げる。これが携拳なんですね。これは、初代教会時代の全てのクリスチャンたちにとって大きな希望でした。勇気が湧く言葉、それが携拳の約束だったのです。

ところが、このシリーズを始めてから、思いがけないコメントを少なからず見るようになったのです。それは、クリスチャンと言われている方々の中で、携拳のメッセージを聞くと不安になる・怖くなる・落ち着かなくなる、などの意見を書いておられる方が少なからずおられたんですね。

まだクリスチャンでない方が携拳のことを聞いた時に、「もしこれが本当なら大変なことだ」と思うのは自然な反応だと思うのです。

しかし、クリスチャンが携拳の話聞いて不安になったり恐れを抱いたりするならば、これは聖書を不正確に理解している可能性が高いです。

なぜなら、そもそもクリスチャンを励ますために与えられている約束を目にして落ち込むならば、解釈がどこかで歪んでいたり、間違っていたりすることが考えられるからです。

そして、はっきり申し上げます。この聖書の約束を敢えて曲げて教える教師たちがいるんですね。

「あなたみたいな そんな生ぬるい信仰生活を送っているクリスチャンは、携拳の時に地上に置いてきぼりにされる可能性があるよ。」そう言って、まあ発破を掛けるといって、脅かしているわけですよ。そう言いたい気持ちも分からないわけではないけど、とっても危険なことです。カルト教会の特徴だとも言えるでしょう。

なぜこれが危険で看過できないのか？ “キリストによる救いを受けたにもかかわらず、その後の信仰生活が甘っちょろいものである場合は地上に残る” と教えることは、「キリストによる救いは 1 度得たとしても、後で失う可能性がある」と言っているのと同じだからです。

これは、キリストの救いの完全性を否定することです。聖書に反することです。

なので今日は、誰が携拳の時に引き上げられるのか、携拳に与るのはどういう人なのかを解説したいと思います。

前回も読んだ箇所ですが、**テサロニケ人への手紙第一 4 章 16-17 節**

**すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身 (イエス・キリスト) が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主 (イエス・キリスト) と会うのです。**

**こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。**

携拳のメッセージはクリスチャンを励ますメッセージだと言っているのですね。

キリストが空中まで下りて来られた時に携拳される人たちは2種類です。

●キリストにある死者。それから、生き残っている私たち/地上のクリスチャンたち。

つまり、キリストにある人なら、死者であろうが携拳の瞬間に生きている人であろうが皆、例外なしに引き上げられると言っているわけです。

ここで正確に読みたいと思います。

キリストにある死者がよみがえり。キリストにある立派な信仰生活を送っていた死者、とは書いてないんですね。キリストにある揺るがない信仰生活を送っていた人たち限定、と書いてないんですね。

キリストにある豊かな実を結んだ人たち、とも書いてないんです。

ただ単純にキリストにある死者、キリストにある人が引き上げられる。つまり決定的なことは1つだけ。キリストにあるかどうか。どんな信仰生活を歩んでいるかではなく、キリストにあるかどうかが決定的なことなのです。

ところで、キリストにあるとはどんな意味でしょう？ 分かりやすく言うと、キリストに所属していること。所属というものがもたらす力について、私はある記事を思い出します。

昔 週刊誌に、高齢の男性に思いがけない遺産が転がり込んで来たという記事がありました。

彼の妻のお父さんが15年前に亡くなったので、彼の妻は遺産として1/4を相続した。

8年前に妻のお母さんも亡くなり、お母さんの財産の半分を妻が相続した。

2年前に妻のお姉さんが亡くなり、子供がいなかったので、お姉さんが残した遺産の1/4を妻が相続した。

この妻がつい先だって亡くなった。その結果、妻の実家の遺産のほとんど全てが(3500万円だったそうです)彼に転がり込んで来た。

この高齢男性と妻の両親はあんまり親しく交わることがなかったようです。妻の姉夫婦も遠くに住んでいるんでしょう。滅多に会うことはなかったんですね。そんなに親しくなかった。

しかし、親しいかどうかは問題じゃないんです。なぜ血縁関係もないこの高齢男性に、こんなにも莫大な財産が転がり込んで来たのでしょうか。妻の親族に所属していたからなんです。

親しくないより親しいに越したことはないですよ。だけど、たとえ親しくなかったとしても、妻の親族に所属していたがゆえに、親族が残した遺産の相続人となったんですね。これが所属による力なのです。

キリストの携拳についても同じことが言えるんですね。誰が携拳に与るのか。キリストに所属している人たちは皆、例外なしに、キリストと親しかろうが遠かろうが、ほとんどちゃんとした信仰生活でなかった者であろうが、所属しているなら、その人は携拳に与るのです。

もちろん親しいに越したことはないですよ。キリストと共に歩んで豊かな実を結んだ人は天国で報いを受けますが、これは携拳とは関係ないんですね。

だから問題は、“どのようにすればキリストに所属できるのか”にかかって来るんです。

聖書の中に、キリストのからだに所属することについてはっきり書いてある箇所があります。

**コリント人への手紙第一 12章 12-13節**

ちょうど、からだ一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリスト(のからだも)もそれと同様です。私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

ここでは、キリストの共同体を**キリストのからだ**と呼んでいます。  
体には目もあれば鼻もあれば口もある。皮膚もあれば内臓もある。色んな体の集合体が1つとなって1つの体が出来ているように、**キリストのからだ**なる教会も色んな人たちによって構成されている。  
ユダヤ人もギリシア人も、白人も黒人も中間色の人も、男も女も。色んな人々が、キリストのからだの中に所属しているのだ。

このキリストのからだに所属する方法は1つだけなんです。

**13.私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊（聖霊）によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。**

一つの御霊（聖霊）によるバプテスマなので、これを聖霊のバプテスマと呼ぶこともあります。  
バプテスマは、ここの原文は**εβαπτισθημεν**（εβαπτισθημεν）。意味は“一体となる”。  
**キリストのからだ**と一体になるためには**聖霊を飲む**ことが必要だ。聖霊を受けることが必要だ。  
聖霊が自分の内側に内住していただくことが必要なのだと言っているのです。  
聖霊を受けた瞬間に、意識しようがしまいが、キリストのからだの中に入れられた、所属したと言っているんですね。

では、どのようにして聖霊を頂くことができるんでしょう？ また、自分が既に聖霊を頂いているかどうかを、どのようにして確かめることができるんでしょう？  
異言が語れるかどうか。一切関係ありません。聖書にそんなことは書いてありません。  
聖書自身が何と言っているかが一番重要ですね。その確認の仕方を聖書はこう言っています。

**コリント人への手紙第一 12章3節**（途中から）

**聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。**

「イエスは主です」という告白が非常に重要視されています。

**イエス**は人の名前です、今から約2000年前にベツレヘムで処女マリアから生まれた人です。  
人であるイエスという方が罪の無い生涯を送り、約2000年前、罪ある私たちの身代わりとなって、十字架に掛かって罰を引き受けてくださいました。人間イエスはアリマタヤのヨセフという人の墓に葬られました。しかし、死後3日目に復活なさいました。

私のために1度死んでくださった方、墓に葬られた方、3日目によみがえられたイエスを主と告白すること。**主**はギリシア語でキュリオス。神という意味です。  
人であって神である方、私の罪のために十字架に掛かって墓に葬られ、3日目によみがえられたイエスを神/主なる神として告白する人は皆、イエスの中に所属している者とみなされるのです。

なぜなら、この告白は、**聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。**  
聖霊によらなければ言うことができない告白をあなたが今言うことができるなら、それはあなた自身が言っているだけではなく、あなたの内におられる聖霊が言わせたということになるからです。

だから、今自分が救われているのか自信がない・確信がないという方は、1度自問自答されたらいいんです。「今私はイエスを主と告白することができますか？」  
できるのなら、それはあなたが言っただけでなく、あなたの内側に聖霊がおられて、その聖霊によって言ったんです。なぜなら、その告白は**聖霊によるのでなければ、だれも言うことはできません**と書いてあるからです。

そして聖霊が内側にいるということは、キリストのからだの中に所属しているということなのです。先ほど読んだ通りです。一つの御霊を飲んだのです。飲んだら、それは自分の中に入ってますよね。聖霊を頂いた瞬間に、キリストのからだの中にバプテスマされた。一体化された。所属した。ですから、キリストに所属する方法は1つだけです。イエス・キリストに対する信仰告白です。

先ほどの高齢男性は、どのようにして妻の親族の一員になることができたんでしょう？婚姻届け、結婚という契約をすることによってですね。それと同じように、人がキリストに所属する方法も契約によってもたらされるのです。つまり信仰による契約です。イエス・キリストを自分の救い主として信じるという信仰の決断が、契約書にサインしたことに匹敵するのです。

イエス・キリストを自分の救い主として信じるなら、既にイエスに所属していることなんですね。なので、もしそうでないなら、たとえ牧師でも、教会生活50年送っている人でも、聖書を原語でスラスラ読める人であっても、携挙に与ることはありません。残念ながら、教会で牧師をなさっている方、また神父を名乗っている方、様々な指導者の方、教会生活でボランティア活動に熱心に取り組んでおられる方、それぞれの働きは尊いかもかもしれませんが、携挙には与りません。なぜなら、イエスを主と告白できないなら、イエスのからだに所属していないからです。しかし、今まではそうであったとしても、イエスのからだに所属するようにという呼びかけは全ての人に提供されているのです。

まだ「イエスは主です」と告白していない方、よく分からないという方は、続けて『ごうちゃんねる』を見てください。そして、「あ、そうだ！分かった！」という時はぜひ、イエス・キリストを主と告白なさってください。そうして、イエスのからだに所属する者となり、携挙を楽しみとする人生の中に入っていたきたいと思います。

次回は携挙シリーズの番外編で、「なぜ聖書は終末論を語るのか？」と色々な質問が来ているので、それについて回答する回にしたいと思います。

チャンネル登録もよろしくお願ひします。実は皆さん、チャンネル登録者が今月になってずいぶん増えまして、とうとう28,900人になりました。年内に3万になったら嬉しいですねえ。3万になったらいいですねえ。何がイイか？やる気が出ます。ということで、ご協力よろしくお願ひします。ではまたこのチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。